



TOYO UNIVERSITY 2019

# CAREER DESIGN

東洋大学キャリアデザイン

# 1461



# CAREER DESIGN

未来を広げる 1461 DAYS



TOYO UNIVERSITY



TOYO UNIVERSITY 2019

# CAREER DESIGN

## ここで紹介する先輩たち

「諸学の基礎は哲学にあり」これは東洋大学の建学の精神です。

哲学とは、常に疑問と好奇心を持ち、一人ひとりが自ら判断できる力を養うこと。

ここで紹介する先輩たちは大学生活の中で、行動し、興味が持てるものを見つけ、探求し、

そして自ら判断できる力を養った方々です。

皆さんもぜひ大学生活で自身が興味を持てるものを見つけ、それを探求してみてください。

その経験が皆さんの生きる力の原点になるはずです。

その先の長い社会人生活へ

大学2年～4年  
【これから】

▶ 大学生に慣れたら自身の見つけた「好き」に向かって目標を持って取り組んでみましょう。時には壁にぶち当たることもあるかもしれませんが、失敗が続くかもしれません。その壁や失敗を乗り越えることで身に付く力は、今後の長い人生の、大切な財産になるはずです。

★  
大学1年  
【今】

▶ 目標が明確だった高校生活とは異なり、自らが目標を設定し、物事に取り組むことが大学生活の充実につながります。そのためにまずは打ち込めるものを探してみましょう。学業、留学、サークル、ボランティアなど、東洋大学では自身の「好き」を求められる環境が整っています。

高校  
【これまで】

▶ 高校時代、目標を持ち頑張った方も多くいでは、受験に向けて学業に励む、部活動の大会で良い成績を残す、文化祭で最高の思い出を作るなど。その頑張った経験は大学入学でリセットされるわけではありません。高校での経験や得られたこと、ものは大学生活を充実させる足がかりになるはずです。



# 1461 DAYS

未来を  
広げ  
る



06

EPISODE:01  
学びの時間



12

EPISODE:02  
社会に触れる



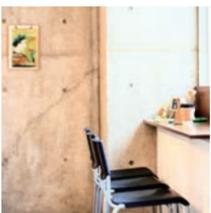
16

EPISODE:03  
世界と繋がる



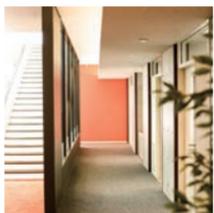
20

EPISODE:04  
学外活動



29

EPISODE:05  
大学生活の  
その先



# 01

## MY FIRST STEP

Rome was not built in a day.

学業に勤しんだ先輩たちも最初の一歩や積み重ねてきた行動がありました。  
学業にのめりこむきっかけは人それぞれ。まずは先輩たちのように行動してみましょう。



内野 将秀 さん  
経済学部国際経済学科

### 〈ゼミ活動〉

ゼミ活動の一環で、新潟県系魚川市を盛り上げるために「移住体験ツアー」を実行しました。リーダーに立候補して、新潟県庁でのプレゼンテーションでは仲間たちをまとめました。



松本 卓也 さん  
法学部企業法学科

### 〈第二外国語〉

ドイツ語の授業がすごく難しかったのですが、分からないときには先生の研究室まで足を運び、お時間を頂戴して教えていただきました。優しい先生の親身な指導で、理解を深めることができました。



加納 竜也 さん  
文学部史学科

### 〈公務員勉強〉

就職支援室や公務員講座を利用することで、予備校へ通わず公務員試験に合格することができました。入学当初から公務員を目指し、早めの段階で多くの単位を取得して試験勉強に専念しました。



柴田 奈緒 さん  
法学部第2部法律学科

### 〈成績優秀賞〉

覚えることやレポートなどのやるべきことをリストアップして、計画的に勉強しました。成績優秀賞という結果はもちろん、結果に至るまでの努力も自分の自信に繋がりました。



石川 将敬 さん  
文学部教育学科

### 〈ゼミ活動〉

2年生の履修登録時から受講した滝川先生のゼミでは、特別支援教育に関する深い知見に触れました。学びを深めていくことで、ゼミの仲間たちと積極的に意見交換ができるようになりました。



山本 七海 さん  
生命科学部生命科学科

### 〈成績優秀賞〉

良い成績を取るために、自分に合った勉強法を模索しました。インプットとアウトプットを繰り返す勉強法が良いと気づき実行したことで、成績優秀者として3年連続表彰されました。

### PICK UP



#### オフィスアワー

#### 各学部教務課

履修相談や証明書発行など各種手続きを行うことができます。



#### ラーニングサポートセンター

学習支援アドバイザーが常駐し、レポート・論文の書き方や高校までの基礎学力向上支援などを行っています。

教員が研究室で質問や相談に対応してくれる時間です。詳細はToyoNet-Gのシラバス・教員プロフィールをご確認ください。



学びの時間  
EPISODE:01



## No. 01

**Name:**  
本木 渚彩 さん

**Profile:**  
経営学部経営学科  
千葉県立鎌ヶ谷高等学校 出身  
(株)ロッテ 内定

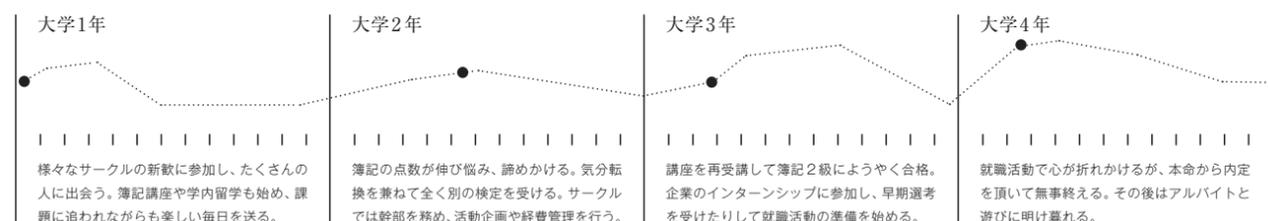
### 常に動き続ける姿勢が、学びを深める原動力に

様々なことに挑戦したいと思っていた私は、大学生活に期待を膨らませて入学しました。その中でも大学での学びを深めるきっかけとなったのは、入学式直前のオリエンテーションです。日商簿記検定試験について知り、「経営学科として学びを深めたい」「自分の可能性を広げたい」と思い、卒業までに2級を取ることが目標となりました。1年生の4月から簿記の授業を受け始めて、6月に3級を取得しましたが、11月の試験では2級に落ちてしまいました。合格のために力を入れたのはスケジュール管理です。サークルとアルバイトを2つずつ掛け持ちしながら、時間を管理することで毎日のリズムがつかめるようになりました。しかし、次の試験でも残念ながら不合格でした。そこでフレッシュのために簿記の勉強から離れて、数字に触れない「秘書検定」と「環境社会検定」の勉強に力を注ぎました。資格の勉強に力を入れたのは、自分のためにプラスになることを続けたかったからです。

### 幅広い分野の知識が視野を広げた

連続で試験に落ちても諦めず、気分転換に違う資格を取れたのは、前向きな性格だったからだと思います。周りには簿記の資格取得を諦めて講座を辞める人もいましたが、私はむしろ、「ここで取れたらカッコいい」と考えました。その結果、3年生の6月に日商簿記2級に合格することができました。合格証書が届いたときは本当に嬉しかったです。資格の勉強を通して、あらゆる分野の知識が身に付き、視野が広がるのを実感しました。内定先では、経理などを担当する管理系総合職として、資格を活かして働く予定です。資格取得に向けて頑張り続けた自信や知識が、今後も自分の武器になっていくと思います。

#### [4年間のモチベーショングラフ]



## No. 02

**Name:**  
内山 七海 さん

**Profile:**  
国際地域学部国際観光学科  
品川女子学院高等部 出身  
(株)JTBビジネストラベルソリューションズ 内定

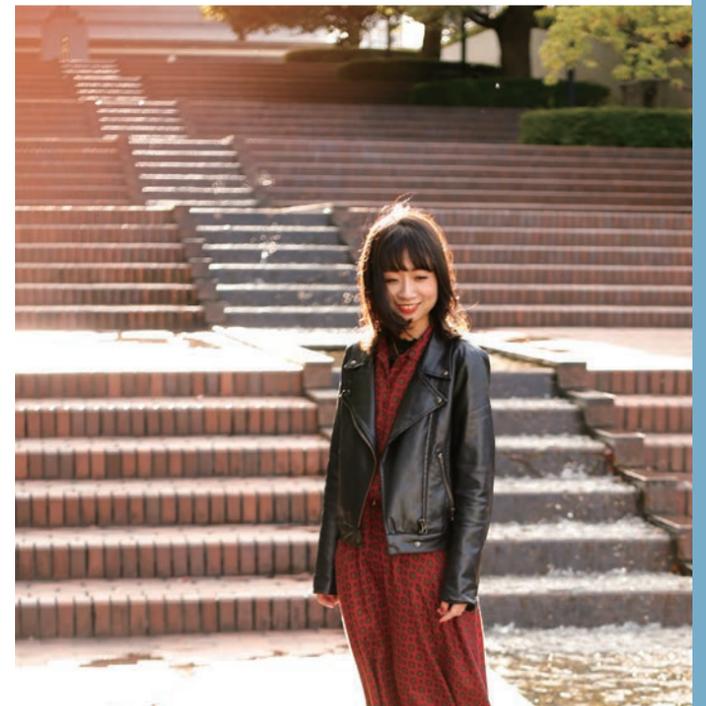
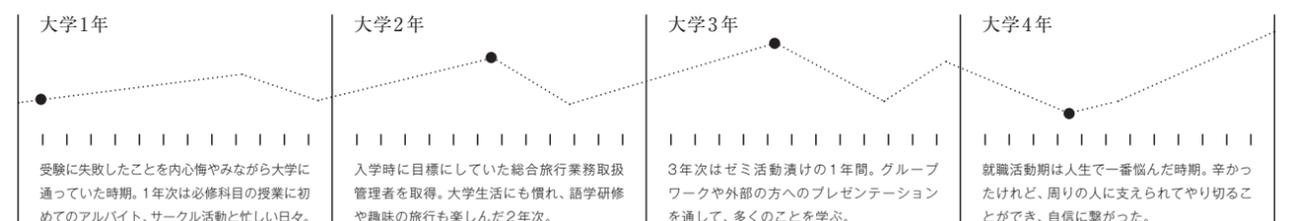
### 先輩のプレゼンに感動してゼミに入ったことが転機に

もともと東洋大学の志望順位が高くなかったため、正直、大学受験は失敗したと思っていました。しかし、国際観光学科の実践的で特色ある授業を知ったことで、専門科目の授業が楽しみになり、後悔はすぐに消えました。旅行業や航空業で働くことを目標として、1年生の9月には「国内旅行業務取扱管理者」を、2年生の10月には「総合旅行業務取扱管理者」の資格を取得しました。意欲ある友人に囲まれたことで、学業を心から楽しむことができました。学生生活で転機となったのは「ゼミ」でした。2年生の初めに、数人の先輩からゼミについての説明を聞きました。中でも、ある先輩の論理的で堂々としたプレゼンに憧れて森下晶美先生のゼミに入ることを決めました。話をまとめることと、人前で話すことが苦手だった私は「このゼミで成長したい」と考えたのです。

### 「苦手なことに挑戦する」だから得られた力

登壇していた先輩から「プレゼンは苦手だけど、あえて挑戦している」と聞いたことがきっかけで、私も積極的に人前で話すように努めました。最も力を注いだのは、3年生のときに大手旅行会社へ向けて独自のツアープランを提案したこと。プロの方々を納得させるために何度も練習して臨んだ結果、「論理的で堂々としていた」との評価を頂き、今でも自信になっています。4年生の春に、今度は私たちが後輩に向けてゼミを紹介しました。プレゼンを担当したのは私です。聴いてくれた後輩のアンケートには「プレゼンに感動しました」という言葉もあり、2年前に目指していた先輩に近付けたようで嬉しかったです。ゼミ活動を通して身に付いた「自信を持って論理的に伝える力」は私の財産です。

#### [4年間のモチベーショングラフ]





### 福祉から子どもにまで興味の幅を広げて

オープンキャンパスでの模擬講義を受けて「繁成剛先生のもとで学びたい」と直感ですが強く思ったことや、素敵な先輩との出会いが、東洋大学を意識した瞬間でした。もともと福祉に興味があったので、入学前から福祉住環境コーディネーターの資格勉強も始めるなど、やりたいことに積極的に取り組んでいきました。入学後は、学科での学びを将来に活かしたいと考えました。授乳室調査のお手伝いを1年次から経験し、幼稚園について学ぶ授業では、本当に子どものことを考える幼稚園に驚きややりがいを感じ、福祉から子どもにまで広く目を向けるきっかけになりました。また、3年次に大学祭実行委員会で広報局の局長を務め、リーダーシップや他人に共感する力が身に付きました。

### 福祉機器の現状を知り、熱意を燃やした

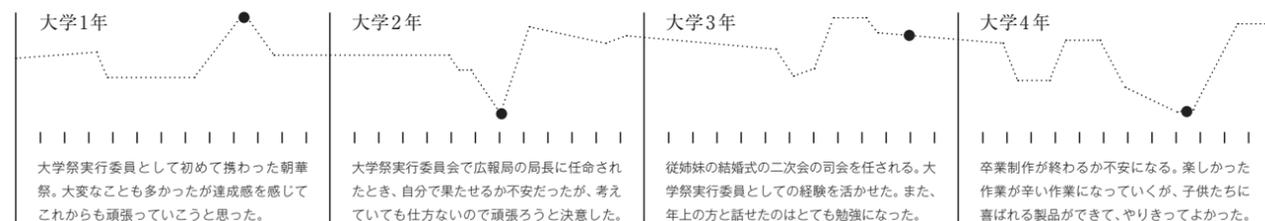
ゼミでは遊具を研究し、大学祭に遊びに来てくれる障がい児や、身体の軸が取れていない子どもたちのためのシャワーチェアを制作しました。ゼミの仲間たちと協力して制作する場面では、大学祭実行委員会で培ったリーダーシップ経験が活きたのを感じました。研究のために子どもたちと触れ合う中で、施設の方々が必要とする玩具がまだまだ足りていないことを知りました。そのため、特定の誰かのためだけではなく、不特定多数のためになる玩具を制作したいと思うようになりました。卒業後は営業職として社会人生活がスタートします。将来的にはより多くの障がい児のためになるデザインに携わりたいです。

## No. 03

Name:  
村上 聡美 さん

Profile:  
ライフデザイン学部人間環境デザイン学科  
埼玉県立春日部東高等学校 出身  
(株)ジャクエツ 内定

### [4年間のモチベーショングラフ]



## No. 04

Name:  
仲重 愛 さん

Profile:  
食環境科学部食環境科学科 フードサイエンス専攻  
茨城県立下妻第一高等学校 出身  
オハヨー乳業(株) 内定

### 「食」に携わるとい目標のために

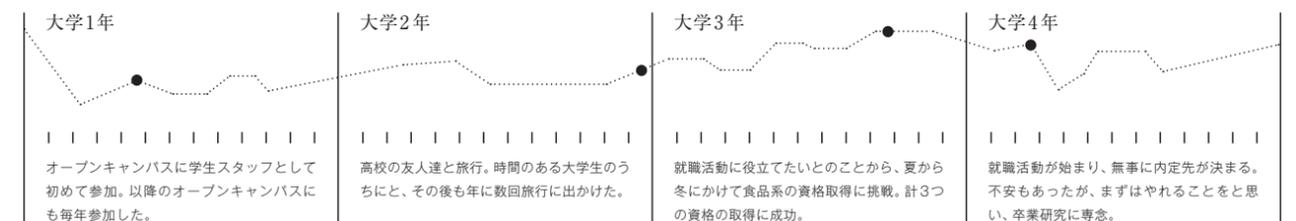
将来は「食」に携わりたいという目標があり、食品系の学科を中心に大学を選んでいました。入学に際して明確な目標を持っていた私は、学科の特色を活かし、フードスペシャリスト、食品表示検定、食生活アドバイザーといった3つの資格に挑戦することにしました。入学前はあまり成功体験がなく、卒業後について漠然とした不安があったこと、「食」に関係する仕事に就きたいという目標のため、勉強にはかなり力を入れて取り組みました。特に力を入れたのは、食品表示検定です。難しい資格とされているので、1、2年次にはなるべく多くの授業に出席し、3年次以降は資格取得に時間を使えるように工夫して準備を進めました。

### コツコツと地道に続けた努力が実った4年間

自分に合った勉強方法を模索するうちに、過去問や演習問題を繰り返し解くことが合っていると気づきました。勉強中に気がなったことがあれば、すぐにスーパーマーケットに足を運び、食品表示を確認することもありました。初めて知ることばかりでしたが、日常に直結する内容も多く、楽しみながら勉強に取り組みました。また、分からないことに対して積極的に行動することの大切さも学びました。何事も事前に計画を練り、コツコツと地道に進めていくタイプの私は、努力の結果、食品表示検定で高得点を取得し大きな自信を得ました。資格取得や身に付いた行動力は、就職活動中も私のアピールポイントになりました。入学前から「食」に携わりたという目標があったので、希望職種である品質管理での内定はとても嬉しかったです。責任ある仕事を任せられるよう、今後も努力を続けていきたいです。



### [4年間のモチベーショングラフ]



# 02

## EXPERIENCE

Seeing is believing.

「社会に触れてみる」それは、将来の方向性を見極めるために大切なこと。聞く、見る、やってみる。実際に自分の目で見ることで未来が開けるはずです。



吉田 滯さん  
社会学部社会福祉学科

インターンシップ先  
広告代理店

インターンシップの志望動機

- ▶ 漠然と広告代理店の仕事に興味を持っていた。
- ▶ 知人からの紹介で会社を知った。
- ▶ 選考はなく、広告の撮影現場に行き、働きたいという気持ちを伝えた。

DATA

期間：約9カ月  
報酬：有  
業務内容  
オフィス掃除はもちろん、企画提出や運営・進行を手伝いました。

知人の紹介により、広告代理店でのインターンシップを経験しました。当初はあまりのめり込めなかったのですが、いざ携わってみると企画出しや撮影などにやりがいを感じて「自分の仕事はこれだ」と目標が定まりました。



奥田 有香さん  
国際地域学部国際地域学科

インターンシップ先  
NPO 団体 DC Tutoring & Mentoring Initiative

インターンシップの志望動機

- ▶ 世界中から高い志を持った学生が集まるのが、非常に魅力的だったため。
- ▶ 英文履歴書が通ると、ワシントンセンターからインターンシップ候補が送られてきた。
- ▶ インターンシップ候補先の方との Skype 面接など、すべて英語での選考だった。

DATA

期間：4カ月  
報酬：無  
業務内容  
ボランティア探しや企画・運営など、多くの仕事を任せられました。

アメリカのNPO団体でのインターンシップでは、先入観を持たず多くの人と意見を交わすことの重要性を学びました。本気で社会を変えていくには、自分自身の視野を広げる必要があると再認識しました。

※インターンシップとは、在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等で一定期間、就業体験するものです。

### PICK UP



#### 就職支援室

国内インターンシップの募集情報閲覧や応募書類の添削などができます。また、就職活動に関する相談や書籍の閲覧なども行うことができます。



#### 国際教育センター

短期および長期の海外インターンシップを取り扱っています。詳細は東洋大学国際教育センターホームページをご確認ください。

EPISODE:02  
社会に触れる

No. YUHEI  
01 IIDA

Name:  
飯田 勇平 さん

Profile:  
経済学部総合政策学科  
習志野市立習志野高等学校 出身  
LINE(株) 内定

“やりたい”を行動に移して

陸上競技に打ち込んだ高校時代とは違って、大学ではスポーツ以外のことに挑戦するつもりでした。入学してみると、皆が目標を持って入学しているわけではないと感じ、部活動などで互いに共通の目標に対して切磋琢磨していた高校時代とギャップを感じました。家と大学の往復を繰り返すだけの毎日に、このままでは勿体ないと感じ始めた1年次の夏頃、“やりたい”と思っていたことにチャレンジし始めました。そのひとつがプログラミングです。海外旅行が趣味だった私は、Webサービスを構築して旅行の利便性を高めたいと考えていました。そこで2年次の10月ごろにプログラミングの教室に申し込んだところ、インターンシップ生として採用されました。経験豊富なエンジニアのもとで勉強し、1カ月後は講師として一般の方にプログラミングの基礎を教え始めました。効率よくインプットとアウトプットを繰り返すことで、知識が定着して自信に繋がったと思います。

「好き」を追求する、それが自分の世界を広げる

3年次の夏からは、Webメディアを運営する会社で1年間のインターンシップに参加しました。お金や仕事の流れを体感できたのはもちろん、サービスの立ち上げに関われたのは大きな経験でした。ゼロから自分が手掛けたアプリが、リリースから7、8カ月後にApp storeで首位になったのです。電車内で使っている人を見たときの感動は忘れません。開発したサービスが多くの人役に立っていることを実感し、達成感を覚えました。インターンシップで自信を持ったのも、興味があることに挑戦した1年次の自分がいたからです。何かに挑戦するというのは、難しく感じるかもしれませんが。少しでも興味のあることや好きなことを追求していくと、自分の世界が広がっていくはずですよ。

My story

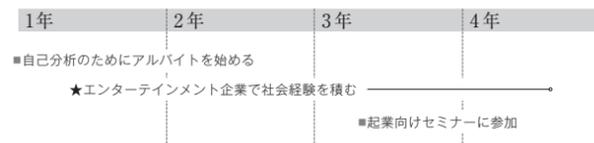


1、2年次は、今まで経験したことのないようなことにも幅広く様々なことにチャレンジした。

3、4年次では、1、2年次で興味を持ったことを中心に1つのことを発展的に深掘りした。



My story



1、2年次は、好奇心が強く色々なアルバイトに時間を費やした。結果、自己分析や自分の成長に繋がった。

3、4年次では、1、2年次の経験を基に、「自分に“しか”出来ないこと」を追い求め、セミナーや講演会などに多く参加した。



勉強と学外活動の両方に挑戦すると決意

高校時代からものづくりに興味があり、理系に進みたいと考えていました。実家が川越キャンパスに近いこともあり、東洋大学には以前から親しみを感じていました。せっかくなら家から一番近い大学に進学し、勉強だけでなく学外活動でも面白いことに挑戦したかったです。大学生生活の転機になったのは、エンターテインメント系企業でのアルバイトが決まったことです。スカウトやオーディション、ライブのお手伝いをするようになりました。それまでにもアルバイトで接客業の経験はありましたが、他の社員の方と同じオフィスで肩を並べ、ビジネスの仕組みや社会人としてのマナーを教えてくださいました。

自己分析する力を身に付けて

小さな頃から自動車レースに参加していたので、勝つことにこだわる性格でした。そのため、アルバイトを通して自分の勝てる分野を探したいと思っていました。考えた企画を提案した際に、「それは別の誰かでもできることでは？」と尋ねられてから、「自分にできること」をするのではなく「自分に“しか”できないこと」が重要だと気付きました。そのためには、自分を分析し、強みを理解することが必要です。アルバイトで身に付けたプレゼン能力や企画力だけでなく、何事にも楽しさを追求するエンターテインメントの創出が私の強みです。そういった自分の力や強みが、就職活動だけでなく自身の成長に繋がりました。今後は、アルバイト先での経験を活かし、自分が楽しいと思える「おもしろい自動車」をつくっていききたいです。

No. HAYATE  
02 MATSUGANE

Name:  
松金 颯 さん

Profile:  
理工学部機械工学科  
埼玉平成高校 出身  
トヨタ自動車(株) 内定



# 03 BEYOND THE LIMIT

Nothing ventured, nothing gained.

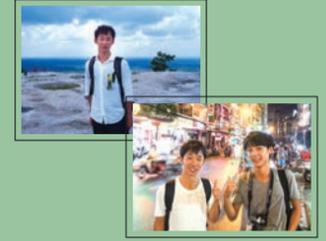
日本にただけでは触れることのできない世界があります。その世界に触れる方法は様々。留学や研修、旅行など。今までの常識を飛び越えてみましょう。



飯田 勇平 さん  
経済学部総合政策学科

### 〈海外旅行〉

休みの期間を利用して海外旅行をしました。中国やアメリカで驚いたのは、電子決済のテクノロジーが進んでいたことです。海外の現状を知り、世界の見方が大きく変わりました。



内山 七海 さん  
国際地域学部国際観光学科

### 〈海外研修（観光フィールドワーク）〉

2年生の春休みにイギリスで客室乗務員研修を受けました。憧れていたCAの方々がやっている訓練に取り組み、現場の様子をリアルに感じたことは貴重な経験だったと思います。



吉田 滯 さん  
社会学部社会福祉学科

### 〈協定校語学留学（ポートランド州立大学）〉

ストリートファッションに興味があり、留学中は現地の友人とアパレルショップで買い物をしていました。語学力が磨かれたのはもちろん、アメリカのファッションを体感できた、生産的な毎日でした。



## PICK UP



**国際教育センター**  
協定校をはじめとする海外の大学のパンフレットや各種資料を数多くそろえています。また、留学した学生の体験記や単位認定、就職活動の情報なども自由に閲覧できます。



**英語コミュニケーションスペース**  
留学生との交流や英語学修を支援するスペースです。学内にいながら国際交流ができます。



EPISODE: 03  
世界と繋がる



アメリカ合衆国留学

Study Abroad | *Portland State University*

**Name:**  
内野 将秀 さん

**Profile:**  
経済学部国際経済学科  
保善高等学校 出身  
凸版印刷(株) 内定

あらゆる刺激を受けるために、  
固定概念なしで挑んだ海外留学

高校生の頃から、「一つのこと集中し過ぎてしまう性格」を短所だと感じていました。そのため、大学では「様々な人の考え方を謙虚に吸収すること」を目標にしました。多様な価値観に触れるため、協定校語学留学でアメリカのポートランド州立大学へ留学したことが転機となりました。現地ではアルティメットというスポーツのサークルに入りました。メンバー内で日本人は私しかおらず、当時の英語力では、言葉や習慣の違いに戸惑うことが何度もありました。分からないことがあれば積極的に質問して素直に受け止めることで、留学前に比べて人に寛容になれたと思います。また、自分自身を客観的に分析することで、「一つのこと突き進む」という短所は「行動力がある」という長所でもあることに気付きました。

帰国後に感じた変化は  
「自信」と「優しさ」だった

留学を終えて日本に帰るときに、アメリカ人の友人たちから「お前はお前らしく生きろ」というメッセージをもらい、自信が持てなかった私に大きな自信を与えてくれました。帰国後は困っている方に声をかけたり、アルバイト先の新人を指導したりと、迷わず人助けができるようになりました。留学期間中、現地の方々に親身に接してもらった経験から、人に対して優しくなれたと思います。留学前は自分のことで精一杯でしたが、今は相手が考えていることをイメージしながら会話をしています。今後の最終的な目標は「周囲のお手本になること」です。今でも留学時に得た経験を活かし、あらゆる意見を謙虚に取り入れて学ぶことを意識しています。

TOYO UNIVERSITY CAREER DESIGN 2019

1年 ..... 2年 ..... 3年 ..... 4年

留学のために英語の勉強を始める

糸魚川市にて集落活性化事業に取り組み

留学中に自由気ままに生活するダニエルと出会う

アルティメットクラブに所属

ダニエルとドライブに行った際に撮った写真です。留学中の思い出は、ダニエルを通して現地の様々な人達と触れ合い、ドライブやハイキング、BBQなどをして楽しめたこと。そして多様な価値観の吸収を行えたことです。

TOYO UNIVERSITY CAREER DESIGN 2019

MASAHIDE  
UCHINO



アイルランド留学

Study Abroad | *Dublin City University*

**Name:**  
奥田 有香 さん

**Profile:**  
国際地域学部国際地域学科  
沼津学園桐陽高等学校 出身  
日本航空(株) 内定

先輩の姿に、  
もっと成長したいと刺激を受けた

東洋大学が第一志望ではなかったのですが、入学時は受験のことを引きずってしまっていました。意識が変わったのは、入学者オリエンテーションでの先輩方との交流会でした。留学やインターンシップの機会を自ら探して挑戦する姿を見て、自分も何かやりたいと触発されました。「東洋大学に入学したのは間違いではなかった」と卒業時に証明できるように、アイルランドのダブリンシティ大学への留学と、アメリカにある現地のNPO法人でのインターンシップに挑戦しようとのとき決めました。2年次に1年間経験したダブリンシティ大学への交換留学では、翻訳や異文化教育の勉強に力を入れました。留学先にアイルランドを選んだのは、一度も行ったことがない国で新しい挑戦をしてみたかったからです。

挑戦することの大切さを  
教えてくれた4年間

もともとすごく頑固で、そうした性格を変えたいと考えたのも留学に挑戦した理由の一つでした。滞在中には、日本文化を伝える活動も積極的に行いました。そのときに会ったアイルランドの友人は現在、日本で語学教師として働いています。相互の文化を理解する一助となれたのではと嬉しくなりました。内定を頂いた日本航空に興味を抱いたのは、社員の方々が日本生まれの航空会社として世界一を目指す姿に憧れたからです。ゼミや留学といった大学時代の経験を通して「挑戦する前から諦めるのではなく、まずダメもとでやってみよう」という意識が生まれ、社会に出ていくための基礎を身に付けることができました。

YUKA  
OKUDA



TOYO UNIVERSITY CAREER DESIGN 2019

1年 ..... 2年 ..... 3年 ..... 4年

ベトナムでのボランティア活動

アイルランド交換留学に挑戦

ゼミでのロサンゼルス研修

ワシントンセンターインターンに参加

ドイツ人の友人を訪ねたときの一枚。几帳面で厳格に見られがちドイツ人ですが、実は非常に面倒見がよく、実家に泊めてもらった際は至れり尽くせりで歓迎してもらいました。

TOYO UNIVERSITY CAREER DESIGN 2019

# 04

## MY WAY

What one likes, one will do well.

この4年間は、学業はもちろん、自身の「好き」を探求できる時間でもあります。サークル、アルバイト、ボランティア、趣味。夢中になって取り組んだことが今後の糧になるはずです。



本木 渚彩 さん  
経営学部経営学科

### 〈サークル〉

3年時にオールラウンドサークルで幹部をしていました。「活動の企画立て」や「サークル費の徴収」「合宿の日程決め」などの業務で、コミュニケーション能力や統率力が身に付きました。



内山 七海 さん  
国際地域学部国際観光学科

### 〈アルバイト〉

スノーボードウェアのアルバイトでは、「それぞれのお客様のニーズに合った接客をすること」を意識しました。お客さんと話していくことで、自分は人と直接関わる仕事が好きで、向いていると気付くことができました。



仲重 愛 さん  
食環境科学部食環境科学科

### 〈オープンキャンパススタッフ〉

オープンキャンパススタッフの活動では、高校生の皆さんが気軽に話を聞きやすくするにはどうすれば良いかを考えました。相手のことを想像し、その場に必要なお気配りができるようになりました。



村上 愛美 さん  
ライフデザイン学部人間環境デザイン学科

### 〈大学祭実行委員会〉

大学祭実行委員会で、広報局の局長を務めました。発言しやすい雰囲気作りを意識し、余裕を持ったスケジュール管理など、局長としての立ち居振る舞いを身に付けました。

### PICK UP



#### ボランティア支援室

ボランティアの募集情報の閲覧、ボランティア関連講座の受講やボランティア活動をする上での疑問点などについて、専門のスタッフに相談することができます。



#### 学内掲示

学内の掲示板ではボランティアの募集情報や国際交流イベント、就職活動イベントなどの告知を行っています。また、本学ホームページやToyoNet-Gでも各種情報を配信しています。



EPISODE: 04  
学外活動

# TAKUYA MATSUMOTO

Name:  
松本 卓也 さん

Profile:  
法学部企業法学科  
広陵高等学校 出身  
青森放送 (株) 内定



01  
MY STORY

## 「絶対に将来の糧になる」と折れずに続けた野球 その経験が自分の未来を照らしてくれる

高校の野球部は、強豪で在学中に甲子園に出場しましたが、メンバー外だった私は試合に出ることはありませんでした。大学入学後は高校時代の悔しい思いがあり「とにかく試合に出たい」と準硬式野球部に入部。投手として活躍するという目標を掲げました。高校時代、外野手だった私は投手として試合に出場するべく、学業の合間を縫って週6日ある練習を必死に取り組みました。しかし、あまり試合に出ることはできなかったのです。ここまでできたのに試合に出られないのか、とも思いましたが、今の経験が「絶対に将来の糧になる」という強い信念を持っていたため野球を辞めることはありませんでした。そして、将来の糧になると必死に打ち込んできた野球が、将来の方向性を明らかにしてくれたので

す。それは動画で投手の研究をしたときに聞こえてきた実況でした。その実況に感動したことをきっかけに、アナウンサーとして「人々に感動を与えたい」と思うようになりました。その後はアナウンススクールに通うだけでなく、テレビ出演オファーをいただきバラエティ番組に出演したり、ミスターコンテストに出場したりと、自身の考えを発信して、少しでも世の中を良くしたいと思い行動するようになりました。振り返ると私の大学生活は成功体験に満ちたものではなかったかもしれませんが、しかし、たとえ結果が出なくとも、諦めずに一つのことをやりきったからこそ、将来に繋がるきっかけを見つけられました。今後は大学生活で見つけた夢を叶えるため努力を積み重ねていきます。

MY EXPERIENCE  
私の経験が力になった



挑戦する力が付いた

① 準硬式野球部  
1年次

監督やコーチがいない中、自分で練習方法を考え、ピッチャーに挑戦した。



児童と関わり教育を学んだ

② 学童のアルバイト  
2年次

友人からの誘いで始め、大好きな子どもたちと一緒に遊んだり、お世話をした。



行動に移す力が付いた

③ アナウンススクール  
3年次

アナウンサーになることを決意し、部活動を引退してアナウンススクールに通い始めた。



自己表現する力が身に付いた

④ ミスターコンテスト  
4年次

学生生活最後の挑戦としてミスターコンテストに出場し、準ミスターという結果を残した。

# REI YOSHIDA

Name:  
吉田 滯 さん

Profile:  
社会学部社会福祉学科  
都立清瀬高等学校 出身  
(株)博報堂プロダクツ 内定



02  
MY STORY

## 好きなものをとことん追求し行動する 行動したからこそ生まれたファッションブランド

「自分の好きなことをとことん追求したい」という思いを抱き入学した私は、もともと趣味だった「ファッション」に取り組みたいと考えました。当初は靴のリメイクを中心に、自分なりに試行錯誤して好きなものをつくっていました。また、原宿のアパレル店でのアルバイトでは、店頭で置く商品の買い付けを海外で行うなどして感性を磨いていきました。好きなことをさらに深めるきっかけになったのはアメリカのポートランド州立大学への留学です。6カ月の留学期間中に、毎日のように現地のアパレル店のスタッフとコミュニケーションを取り、本場のアイテムや言葉に触れることで、アメリカの文化を吸収しました。また、ロサンゼルスでホームレスに服を配っている友人と出会い、服をつくって

みたいと思ったことがきっかけで友人とファッションブランドを立ち上げました。独学でデザインを学び、今は「自分が着たい服を作る」というコンセプトで服をネット販売しており、海外の人たちを中心に購買者が増えています。4年次には友人を介して出会ったスペイン人に誘われ、スペインのファッションイベントにも服を出展しました。好きなことをここまで深めることができたのは「失敗してもいい」「失敗から得られることも多い」と思い、積極的に行動しチャンスをつかみ続けたからだと思います。行動したからこそ一緒にファッションを追求してくれる人や、服をつくってくれる工場の方と出会うことができました。社会人になっても大学生活のように失敗を恐れずに挑戦し続けたいと思います。

MY EXPERIENCE  
私の経験が力になった



英語学習への力になった

① 語学セミナー  
1年次

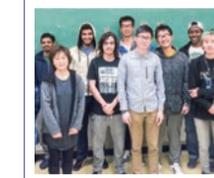
語学セミナーでポートランドへ行き、英語学習への意欲が向上。



留学への力になった

② 海外旅行  
2年次

旅行で韓国へ。3年次での留学を考えていたため2年次は遊びに集中した。



挑戦する力が付いた

③ 協定校語学留学  
3年次

アメリカのポートランド州立大学へ留学。英語力向上とともに自ら動いて物事に挑戦することの大切さを学んだ。



行動に移す力が付いた

④ 洋服のデザイン  
4年次

洋服のデザインを本格的に始め、スペインでのイベントに参加。

# TATSUYA KANO

**Name:**  
加納 竜也 さん

**Profile:**  
文学部史学科  
千葉県立船橋芝山高等学校 出身  
船橋市役所 内定



03 MY STORY

## アルバイト先での成功体験が自信に繋がり、積極的に行動することの大切さを実感

第一志望として東洋大学に入学しましたが、初めはやりたいことが特にはありませんでした。大学生活が充実したきっかけになったのは、入学から卒業まで続けた回転寿司のチェーン店でのアルバイトです。そこで意識していたのは、職場の課題を探すことです。職場の環境を良くし、働きやすくするには、常に新しい改善点を見つけて、解決することが重要だと考えていたからです。私が勤務していた店舗は、掃除の時間をしっかりと確保することを目標としていました。そこで私はチームのスタッフに呼びかけを行い、閉店に向けた作業を早めることから始めました。その結果、閉店までの時間に余裕が生まれ、隅々まで掃除を続けることができ、チェーン内で衛生面の評

価が高まりました。チーム全体に指示を出して成果を出せたことは、大きな自信に繋がりました。このアルバイトなど4年間を通して学んだのは、自ら積極的に行動して挑戦することの大切さです。様々な経験を通し、初対面の人と接する際にも良好なコミュニケーションを取れるようになりました。今後、社会人として歩んでいく上での基礎を築くことができたと感じています。3年次に参加した市役所のインターンシップでは職員の方に直接お話を聞き、仕事ぶりを拝見できたことで、卒業後の明確な目標が定まりました。今後も積極的に行動することを忘れず、市役所の職員として成長していきたいです。

MY EXPERIENCE

私の経験が力になった

① 東北でのボランティア  
1年次  
東北の人たちとの関わりから、将来は誰かのためになることをやりたいと気付いた。

② 東北のお祭りボランティア  
2年次  
現地の市役所の方にお話を聞き、公務員になりたいと強く思うようになった。

③ 銚子市での初日の出  
3年次  
公務員試験まであと半年という区切りのとき、バイクで初日の出を見に行った。

④ アルバイト仲間  
4年次  
無事に市役所に合格し、4年間続けたアルバイト仲間とたくさん遊んだ。

# SYUNYA WATANABE

**Name:**  
渡部 俊耶 さん

**Profile:**  
総合情報学部総合情報学科  
栃木県立石橋高等学校 出身  
(株)ドワンゴ 内定



04 MY STORY

## 大学進学を機に、メディア全般に興味の幅が広がった 発想の転換や芸術考察が創作のアイデアに

入学する前はWEBデザイナーに興味がありましたが、自分の趣味の広がりや新しいことを知っていくうちに、入学してからはドワンゴの企画職を目指すという目標が明確になっていきました。大学生活で1番の転機となったのは、メディアコンテンツ研究会との出会いです。高校は進学校で毎日勉強づけたこともあり、失いかけていた想像力をこのサークルで取り戻しました。新入生を勧誘する際の動画制作や、合宿で実施したクイズ大会などの自由な活動のおかげで、人に楽しんでもらいたいという気持ちが養われ、企画職という職を掴む大きなきっかけになりました。メディア好きという共通点がある人や、常識外れな話を真剣にできる人と出会えたことで価値観が広がり、その後、社会人を目指す上でも

大きなプラスになりました。サークル活動だけでなく、大学での授業も刺激的でした。特に前原真吾先生の授業では、偉人たちの発明の歴史を通し、「別なやり方もあり得る」という発想の転換について学びました。「視点を変えるだけで自分の気付かなかったことが見える」という考え方は、目からウロコが落ちるようでした。また、石原次郎先生のゼミでは、「壁の落書きを含めたいろいろな芸術作品について、なぜ額縁に入ると作品になり、壁に描かれると落書きになるのか」という内容の講義が印象的でした。その理由をアートという視点からひも解く授業からは、創作上のアイデア考案において大きな影響を受けました。サークル活動や授業での学びが、仕事だけでなく今後の創作活動にも役立っていくと思います。

MY EXPERIENCE

私の経験が力になった

① 東京ディズニーリゾート  
1年次  
幼い頃から好きで、時間があるときはこの場所で適度に息抜きをしていた。

② ニコニコ超会議2017  
2年次  
毎年、来場者としても楽しんでいるイベントで、スタッフとして参加。

③ サークルの夏合宿  
3年次  
チーム対抗のクイズ大会を実施し、メンバー全員が大盛り上がりしてくれた。

④ サークルの紹介動画  
4年次  
所属するサークルの魅力を伝えつつ、時間内に収まるよう考えながら制作。

# NAO SHIBATA

**Name:**  
柴田 奈緒 さん

**Profile:**  
法学部第2部法律学科  
福島県立郡山高等学校 出身  
リコージャパン(株) 内定

05  
MY STORY



## 勉強、サークル、アルバイト、 何にでも挑戦するプラス思考を身に付けて

志望していた大学に落ち、東洋大学法学部の第2部に進学しました。当時は、悔しくて落ち込んだことをよく覚えています。しかし、この悔しさを活かし「試験で良い成績を取ることを目標に勉強に励みました。「支えてくれている家族に頑張っている姿を見せたい」という思いも、気持ちを切り替えるきっかけになりました。授業では成績優秀賞を目指し勉強に励み、サークル活動ではビッグバンドジャズサークルでパートリーダーを務めるなど、受験に失敗して悔しかったからこそ、どの活動も全力で取り組みました。学外では、マタニティ用品を扱う店舗でのアルバイトにも挑戦しました。接客業を選んだのは、人に話しかけるのが不得意で、接客を通して苦手意識を克服したかったからです。幅広い業務の中で特に

頑張ったのは、新規のカード会員を獲得すること。カードを作ってもらう目的で声をかけるのではなく、買い物に困っているお客様を助けた上で勧めるなど、自分なりに工夫しました。お客様の目線に立つことの重要性を学び、自分の苦手分野で成果を挙げたことが、大きな自信に繋がりました。4年間の大学生活を通して、プラス思考になれたのは大きな変化でした。何をやってもダメだと後ろ向きに考えていたのが、「成るように成る」とマイペースに努力を続けられるようになったことで、努力した分だけ成果が付いてくることが分かり、精神的にも少しずつ強くなりました。今後の社会人生活においても大学での経験を忘れず、お客様に寄り添い、課題を共に解決できる営業担当として成長を続けていきたいです。

MY EXPERIENCE

私の経験  
力になった



①ゼミ対抗バレーボール  
1年次

新しい環境で不安の中、授業、アルバイト、サークルなどに楽しさを見つけることができた。

楽しさを見つける力が付いた



②サークル活動  
2年次

ビッグバンドジャズサークルの活動では、多くの問題を乗り越えチームがまとまった。

様々な角度から物事を考える力が付いた



③アルバイト  
3年次

信頼や責任感だけでなく、お客様の視点に立つことができたようになった。

責任感が身に付いた



④ガム旅行  
4年次

就職活動を悔いなく終わらせ、高校時代の友人とガム旅行を思いっきり楽しんだ。

友人と楽しむことが力になった

# MASATAKA ISHIKAWA

**Name:**  
石川 将敬 さん

**Profile:**  
文学部教育学科  
千葉県立鎌ヶ谷高等学校 出身  
千葉県教育委員会 内定

06  
MY STORY



## バレーボールを通して学んだチームワーク 特別支援教員として教育の場で活かす

高校生のときから教員になりたいという夢があり、東洋大学への進学を決めました。しかし、第一志望ではなかったことで常に劣等感があり、周囲との付き合いを大切にできていませんでした。周囲からは、嫌な奴だと思われていたかもしれません。気持ちに変化が生まれたのは、2年生の頃です。バレーボールサークルに所属し、セッターとしてチームの中心でプレーするようになりました。先輩方に付いていくのが精一杯だった初めの頃と違って、チームの中心としてプレーすることによって学内で落ち着ける場所を見つけ、友人も増えていきました。その友人達と話していく中で、自分が周りの人に対し勝手にフィルターをかけていたことに気付きました。サークルだけでなく学部の友人も増やしていくうちに、いつのまにか

劣等感は消えていました。大学入学がゴールではなく、与えられた場所でどうするかが大事だと気付いたからです。そこからは、人間関係を大切にできるようになりました。サークルでは、先輩たちの連覇の記録を止めないように、絶対に関東1位になるという強い気持ちで活動しました。そのために、大学リーグや海外の動画を見て勉強し、大小様々な大会に出場し優勝経験を積みました。セッターという司令塔を務めたことで、冷静に状況を判断する力が身に付き、全てを一人で解決するのではなく周囲の仲間に頼りながら物事を進めることが大切だと学びました。卒業後は、特別支援教員として子どもたちと関わっていきます。今後の教育現場にも必要なチームワークを学生時代に学べたことは、大きな財産になりました。

MY EXPERIENCE

私の経験  
力になった



①夏期首都大リーグ  
1年次

インカレサークルの早稲田buddyでセッターとして初めての優勝、自信を得た。

向上心が身に付いた



②秋季同好会リーグ  
2年次

秋季同好会リーグにて関東1位、頼りがいのある仲間とつかなだ優勝は大学一の思い出。

仲間との信頼が力になった



③青春18きっぷ  
3年次

青春18きっぷを使って初の一人旅、千葉から2日かけて鹿児島へ。行動力を得た。

行動力が付いた



④教員採用試験  
4年次

千葉県教員採用試験を受けた仲間。同じ志を持った3人で合格を掴んだ。

継続して努力する力が付いた

# NANAMI YAMAMOTO

Name:

山本 七海 さん

Profile:

生命科学部生命科学科  
神奈川県立横浜平沼高等学校 出身  
協友アグリ(株) 内定



07  
MY STORY

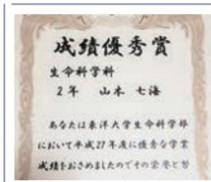
## 充実した学生生活を送った結果、 サークル活動から地域貢献とリーダーシップを学んだ

「誰よりも充実した学生生活を送りたい」という思いで東洋大学に入学した私が、大学生活で特に記憶に残っているのは、所属する地域活性化サークルで代表補佐に指名されたことです。積極的にサークルの活動に参加する姿を評価頂き、代表補佐として指名されましたが、リーダー経験がない私は不安でした。1年目は、たくさんの意見を取り入れてメンバー全員が納得できるような活動を目指しましたが、全員を納得させることは難しく、現実的に無理があることを反省しました。そこで、2年目は自分の意見を多少は通し、あらかじめ役割分担を決めておくなど工夫することで、スムーズに運営することができました。リーダーシップの経験を積んでいくことで、人をまとめる力が付き、挑戦することの大切

さも実感しました。板倉町や館林市の地域活性化に貢献していく中で、館林市のハロウィンナイトのイベントがありました。企画・運営として携わり、当日は今まで培ってきたリーダーシップを発揮しました。大勢の人が参加しイベントの成功を取めたことは、大きな自信に繋がりました。他にも、学科や学年もバラバラなスペイン語の授業で、みんなと仲良くなるためにクリスマスパーティーを立案できたのは、サークルでのリーダーシップ経験があったからです。初めはそれぞれ距離があった学生たちでしたが、クリスマスパーティーを行ってからの授業では、ペアワークなどが以前より楽しい雰囲気で行われるようになりました。今後も大学での経験や身に付いた力を活かし、挑戦し続けたいと思います。

MY  
EXPERIENCE

私の経験  
力になった



① 成績優秀賞  
1年次

成績優秀者の表彰状。勉強だけでなくサークル活動にも積極的に参加した。

複数のことを努力する力が付いた



② サークルの代表補佐  
2年次

サークルの代表補佐になって初めての学園祭。リーダーとしての対応を学んだ。

リーダーとしての対応力が付いた



③ 講義中でのパーティー  
3年次

私が発案した、スペイン語の講義中のクリスマスパーティー。

自主的な行動力が付いた



④ 免許合宿  
4年次

今までの経験で培ったコミュニケーション力を発揮。初めて会う人ともすぐに打ち解けた。

今までの経験を活かした

EPISODE:05  
卒業後のキャリアについて  
大学生活のその先

大学卒業後の自分をイメージしたことはありませんか？  
卒業後の人生は4年間とは比べ物にならないほど長いもの。  
しかし、この4年間の経験や培った力が卒業後の長い人生に繋がっていきます。





渡邊 悠司 さん  
YUI WANABE

4年間のヒト、モノ、コトが  
自分の未来を教えてくれる。

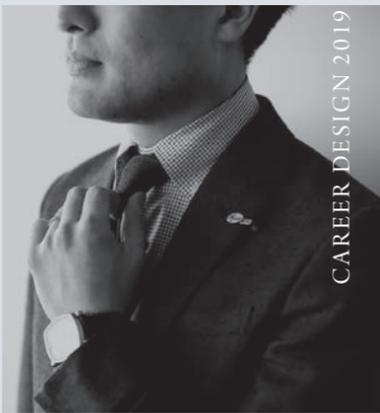
*Every little step leads to success*

**Profile:**  
【製薬】ファイザー（株）  
法学部法律学科 2008年3月卒業



大学進学を決めたとき、私には将来のビジョンがありませんでした。正直に言えば、「弁護士や検事ってカッコいい!」というざっくりしたイメージだけで法学部に入り、その勉強量の多さに後悔した瞬間もあります。ですが、私は最初に決めていたことがありました。進学するなら「もっと頑張っておけばよかった」と後悔する学生生活だけは送らないと。4年間、そのモチベーションを保つことができたのは、学業以外の時間も充実させられたからだと思います。大学では友人の立ち上げた阿波踊りサークルに所属し、毎年夏休みには本場の徳島へ。東洋大学出身のお父さん方が結成した団体に混ぜていただき、チームで物事を成し遂げる楽しさを覚えました。アパレルショップのアルバイトでは、人として目

標にしたい上司との出会いが将来を考える転機になりました。たくさんのお客様と接する中で、どんな仕事にも通ずる「相手が求めるものを汲み取る力」が養われたように思います。そして今、私は製薬会社で、医師や薬剤師に自社の医薬情報を提供するMR（医薬情報担当者）として働いています。学生時代に様々な経験ができたからこそ、法学とは別の道にも夢を描くことができました。とはいえ、課題を見つけ、そこに何が必要か具体的な対策を練る思考力は法学部で身に付けた力。改めて、どんな経験も人生の糧になることを痛感しています。大学の4年間で充実させられるかどうかは自分次第です。周りの環境や人に流されず、本当にやりたいことへ全力をそそぐ最高の時間を大切にしてください!



怖いけど失敗していこうよ。  
臆病だから、挑戦し続ける。

*Every little step leads to success*

**Profile:**  
【宿泊業】（株）ザ・キャピトルホテル東急  
国際地域学部国際観光学科 2010年3月卒業



中村 友美 さん  
TOMOMI NAKAMURA



「ホテルで働きたい!」ドラマの影響でホテルのキラキラしたイメージに憧れていた私は、ただまっすぐにその想いだけを抱いて国際観光学科へ進学しました。高校生の頃は接客業がどんなものかも知りませんでしたが、最高のサービスを身に付けるにはホテルで働くことが1番であるという、なぜか強い思いがあったのです。大学の授業は、1年生のときから旅行業務取扱管理者の資格取得を目指すことができるなど専門的なカリキュラムが盛りだくさんでした。難しい授業もありましたが、勉強すればするほどホテル業への夢は膨らむばかり。早く社会人になりたい一心で、放課後はサークルより飲食店でアルバイトをすることが何よりの楽しみでした。学んだことを実践に落とし込むことで身に付けた言葉遣いや立ち居振る舞いは、

今も「最高のサービス」を目指す毎日の支えになっています。本来の私は人見知りでも怖がり。だから人一倍知識を蓄えておかないと現場に立つのも不安ですし、立ち居振る舞い一つ取ってもしっかり予習しておかないとお客様の前に出るのも怖いからです。しかし、「失敗しそうだから挑戦しない」より「挑戦して失敗する」ほうが何倍も勉強になる。怖いからこそ挑戦し、たとえ失敗してもそこから得る学びを大切にすることで、人は成長できるのではないかと思います。大学の4年間は、自分が本当に何をしたいのか見つける時間です。人生において入学はゴールではなく、卒業さえも終着点ではありません。勉強、遊び、アルバイトと失敗を恐れず何にでも挑戦し、ぜひ充実した学生生活を送ってください。